

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 佳作>

「僕の夢」

柏村圭哉

僕の夢は、幸せな家庭を築くことです。愛する奥さんと子供たちに囲まれて生活していきたいと思っています。

僕は、一歳のときに病気で父を失いました。当然ながら、父のことは覚えていませんし、「父」というものが分かりません。もし父が生きていたら…。そう思うことも多々ありました。しかし、さみしいと思ったことは一度もありません。母は一人で僕と兄の二人を育ててきました。その中で僕たちが、さみしく思ったり困ったりしなかったのは、今思えば、母の人並み知れぬ努力のお陰であったのだと思います。

思春期になった僕は、次第に母族と過ごす時間が増え、口さえ利かない日も多くありました。その中で、僕は人のことを、そして自分のことさえも大事にできませんでした。そんな時に、母はこう言いました。「人のことを愛する前に、自分を愛しなさい。人から愛されたいなら、まずは自分から誰かを愛しなさい。」と。その言葉を聞き、嫌な自分も、信用できなかった周囲の人々のことも、少しずつ受け入れ、認めていくようにしました。

幸せな家庭を築くために、僕は人も自分も大切にし、そして、その中でたくさんの出逢いの一つ一つも大切にしています。これを努力と呼ぶのか、呼んでいいのかは分かりませんが、この事が一番大切だと信じています。「幸せな家庭を築くこと」。これもまた夢と呼べるのか分かりません。しかし、家族三人でたくさんのことを乗り越えていく中で、家族のあたたかさや大切さを学びましたし、父のこともあり、「家庭」というものに対する思いは、とても強いです。だからこそ、未来の自分の子供たちのためにも、自分の居場所と呼べる、あたたかく幸せな家庭を築きたいと思うのです。